



杉並区と日本フィルハーモニー交響楽団の友好提携30周年を記念して、日本フィル首席ホルン奏者の信末碩才さんにお話を聞きました。

— ホルンを始めたきっかけとホルンの魅力を教えてください。

ホルンを始めたのは中学で吹奏楽部に入ってからです。母が昔、吹奏楽部で使っていたホルンがまだ家にあったので、やってみようかと思いました。最初はなかなか音が出せなかったですが、どんどんはまっていきました。ホルンの魅力はひとこと言うと「音がいい」に尽きます。やわらかくて、豊かな音色が一番の特徴と言える独特の存在だと思います。オーケストラの中でもソロパートが多く目立ちますからね(笑)。

— いつ頃から演奏家を志すようになったのですか？

大学2年の頃に読売日本交響楽団の方が指導に来てくださり、僕の演奏を聴いてエキストラに指名してくださいました。このときの経験が僕の人生を大きく変えました。プロの方に混ざって演奏する、ということは初めてだったので、全てが刺激的で、トッププレイヤーの方々と肩を並べて演奏していきたいと強く思ったのがきっかけです。

— 「首席奏者」とは具体的にどんなお仕事をするのですか？

オーケストラの中でホルン奏者はだいたい4人で編成されていますが、4人の音がオーケストラ全体に調和するようまとめる役を担っています。音をまとめるという気質を持った、リーダータイプ人間が就くポジションと言えます。

— 杉並区の公演で印象に残るエピソードがあれば教えてください。

区役所でのロビーコンサートはお昼の貴重な時間なのに、みなさん足を止めて聴いてくださるんです。杉並公会堂での公開リハーサルも毎回多くの方に来ていただき、音楽に関心のある方々に支えられているんだな、と実感しています。

— 今後の目標を教えてください。

今も昔も世界一のホルン奏者になりたいと思っています。何かのコンクールで優勝するということではなく、あなたが思い浮かべるホルン奏者は誰ですか、と聞かれたときに、真っ先に「信末碩才」の名前が挙がったら、それはもう世界一だと思うんです。そんなホルン奏者になりたいですね。

こぼれ話はスグナミ・ウェブ・ミュージアムで紙面に掲載できなかった、とっておきの内容を「こぼれ話」としてまとめています。



ホルン奏者
のぶ すえ せき とし
信末 碩才さん

Profile

1997年栃木県生まれ。12歳よりホルンを始める。春日部共栄高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部を卒業。第86回日本音楽コンクールホルン部門入選。第35回日本管打楽器コンクールホルン部門第3位。ホルンを飯笹浩二、日高剛の各氏に師事。2021年に24歳の若さで日本フィルハーモニー交響楽団の首席ホルン奏者に就任。

ホルン奏者といえは「信末碩才」と言われたたい。

SEKITOSHI
NOBUSUE
INTERVIEW

撮影場所：江戸川区総合文化センター



杉並区×日本フィルの
友好提携について

音楽を通じた区民の豊かな交流と地域文化の振興に向けて杉並区と日本フィルは1994年(平成6年)7月5日に友好提携を結び、今年30周年を迎えました。フルオーケストラによる杉並公会堂での年4回のコンサートをはじめ、区役所ロビーコンサート、リハーサルの公開、区内施設、小・中学校での出張コンサートなどの活動を行うことで、区民のみなさんが身近なところで質の高い文化に触れる機会を創り出しています。

